



守時タツミ ピアノコンサート 癒しの音色が村民らを魅了

「ラジオ深夜便」などでお馴染みのピアニスト、守時タツミさんのコンサート『景色の見える音楽会』が、5月13日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。

守時さんの飯館村でのコンサートは今回で5回目となりました。震災後の飯館村をテーマとした「ひぐらし」「秋風に乗って」など13曲が、美しい映像や収録した“自然の音”と一緒に披露されました。村内外から集まった40人の参加者が、守時さんの奏でる美しい旋律に聴き入りました。



(上)コンサート終了後、守時さんを囲んで。
(左)美しいピアノの音色に心が洗われました。

春日部市の『藤まつり』にて 来場者に飯館村をPR

村は、4月23日、埼玉県春日部市の『藤まつり』に出展し、特産品を販売するなどして飯館村をPRしました。同まつりは春日部市民に愛される恒例行事で、コロナ禍の影響で4年ぶりの開催でした。元村役場職員で現春日部市職員の佐藤修さん(写真中央/深谷)、元応援職員で栃木県鹿沼市職員の橋本浩一さん(同左端)が村のブースに駆け付けてくださいました。



約1.1kmの藤棚を藤の花がやさしく彩ります。村のブースにも大勢の方に立ち寄っていただきました。

いよいよ生産拡大 田植え進む「あぶくまもち」

「あぶくまもち」は、県が高冷地向けの品種として開発し、平成21年に品種登録されたもち米です。村も栽培拡大に取り組んでいましたが、震災により中断されました。村は、令和3年に前田地区のほ場16aで実証栽培を開始し、その後立ち上げられた生産組合の協力を得て、「あぶくまもち」の復活と魅力向上に取り組んでいます。昨年収穫した種籾で育苗し、今年は組合員3軒で合計2.3haに作付け。10t以上の収穫を目指しています。5月中旬から、それぞれの水田で田植えが行われました。



5月16日、「あぶくまもち」の田植えを行う森永正男さん(前田・八和木)。ベテランの技でスムーズな作業。

飯館YOITOKO発見!ツアー 田植踊などで飯館の魅力を堪能

4月30日、第3回飯館YOITOKO発見!ツアーが開催され、県内外から30人が参加しました。ツアーではまず綿津見神社で「八木沢の田植踊」を鑑賞した後、村指定文化財の六字名号供養碑と銅屋場製鉄遺跡を巡りました。午後には、民家園で漫画家・しりあがり寿さんによる「田植踊の衣装を考える」ワークショップ、高橋日出夫さん(関根・松塚)のビニールハウスで花の収穫体験会が開かれ、参加者が飯館村の多彩な魅力を堪能しました。



(上)ワークショップで描いた絵を手に記念撮影です。
(左)復活したばかりの「八木沢の田植踊」を鑑賞しました。

いいたて結い農園 「宇宙エゴマ」の生産開始

「宇宙エゴマ」とは、一般社団法人ワンアースのプロジェクトで、令和3年に約1か月の宇宙旅行をしてきた飯館村産エゴマのことです。昨年は希望の里学園の児童も参加して、この「宇宙エゴマ」の種まきを行い、一般社団法人いいたて結い農園(長正増夫代表/大久保・外内)が大切に育てました。今年昨秋収穫した「宇宙エゴマ」を畑に蒔いて、大規模に栽培します。長正さんは「宇宙エゴマには物語がある。さらに大切に組みたい」と話しています。種まきは、5月18日に行われました。



無農薬でエゴマを栽培する「いいたて結い農園」。今年、育苗畑に播種したのは全て「宇宙エゴマ」です。

相馬看護専門学校の学生が 地域看護実習を行いました

5月9日・11日・12日の3日間、相馬看護専門学校の2年生が、飯館村で地域看護実習を行いました。同校は、相馬市・南相馬市・新地町・飯館村で構成する相馬地方広域市町村圏組合が相馬市に開設した専門学校の、村内で実習を行うのは今回が初めてです。3日間で延べ20人が実習を行い、役場職員から地域の現状を聞き、保健師の家庭訪問に同行しました。村を訪れるのは初めてという学生も多く、「実際に来て学ぶことがたくさんあります」と実習の手応えを話していました。



少人数に分かれ家庭訪問に同行。「家族のためにも我が健康は大事だね」と語る千葉実さん(右端/前田)。